

# 小学校における「縦割り班」活動の現状と課題

毛利 猛  
(学校教育)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

## The Actual Trend and Issues of the "Tatewarihan" Activities in Primary School

Mouri Takeshi

*Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

**要 旨** 全国的小学校の約4パーセントにあたる940校を抽出して、「縦割り班」の編成状況（地域別、学校規模別の「縦割り班」の編成率と編成方法）とその活動内容（集会活動、当番活動、業間の活動、学校行事などの「縦割り班」での実施率）等を明らかにするための調査を行なった。本研究は、この全国的な調査に基づいて、小学校における「縦割り班」活動の取り組みの現状を分析するとともに、その教育的意義と課題について考察したものである。

**キーワード** 縦割り班、小学校、異年齢集団、特別活動

## 1 はじめに

少子化とともに兄弟数が減少し、また地域における異年齢の遊び仲間集団も崩壊するなかで、学校において意図的に異年齢の子どもたちを交流させようとする取り組みが増えている。いわゆる「縦割り班」活動は、そのような取り組みの一つであるが、子どもたちの社会性を育てるために、全国の多くの小学校で実践されているにもかかわらず、これまで、こうした異年齢の仲間集団づくりの実践について、その取り組みの現状や課題を明らかにすることはなされてこなかった。

いうまでもなく学校におけるほとんどの教育活動は、「学級」を基礎的な単位として行なわれている。学校がまず何より勉強するところであ

ることを考えたとき、同じ年齢の子どもたちを横割りの学級集団に編成して教えるのがもっとも効率的であることは間違いないから。ところが、そこにあえて、縦割り（異学年）の集団活動を意図的に組み入れようとする学校が増えてきたのである。

さて、われわれは平成14年12月から翌年1月にかけて、全国の小学校の約4パーセントにあたる940校を抽出して、「縦割り班」の編成状況や活動内容等に関する調査を行なった。本研究は、この全国的な調査に基づいて、小学校における「縦割り班」活動の現状を明らかにするとともに、その教育的意義と課題を考察するものである。

表1 所在地（都道府県）別集計

所在地	発送数	回収数	回収率(%)	所在地	発送数	回収数	回収率(%)
北海道	62	33	53.2	滋賀	9	4	44.4
青森	19	13	68.4	京都	19	8	42.1
岩手	19	15	78.9	大阪	42	18	42.9
宮城	19	13	68.4	兵庫	34	20	58.8
秋田	13	8	61.5	奈良	10	4	40.0
山形	14	11	78.6	和歌山	13	7	53.8
福島	22	14	63.6	鳥取	7	6	85.7
茨城	24	19	79.2	島根	12	7	58.3
栃木	18	11	61.1	岡山	18	15	83.3
群馬	14	12	85.7	広島	26	15	57.7
埼玉	34	13	38.2	山口	15	10	66.7
千葉	34	20	58.8	徳島	10	9	90.0
東京	58	30	51.7	香川	8	6	75.0
神奈川	36	22	61.1	愛媛	15	11	73.3
新潟	26	16	61.5	高知	12	8	66.7
富山	9	8	88.9	福岡	31	16	51.6
石川	11	9	81.8	佐賀	7	4	57.1
福井	9	6	66.7	長崎	16	12	75.0
山梨	8	3	37.5	熊本	19	11	57.9
長野	16	11	68.8	大分	14	8	57.1
岐阜	16	14	87.5	宮崎	11	5	45.5
静岡	21	12	57.1	鹿児島	23	15	65.2
愛知	39	25	64.1	沖縄	11	9	81.8
三重	17	13	76.5	全 体	940	579	61.6

## 2 調査の概要

### ・調査対象校

全国の小学校の約4パーセントにあたる940校を『全国学校総覧』より抽出した。なお、抽出に際しては、都道府県毎に、上の学校名簿の25番飛び（スタート番号は無作為）に対象校を選んだ。

### ・調査時期

2002年12月～2003年1月

### ・調査方法

郵送による発送および回収。

### ・回収状況

発送数940、回収数579（回収率61.6%）

## 3 調査の結果

### 3. 1 回答校の属性

#### ①所在地

調査校の所在地（都道府県）別の回収率は表1のとおりである。表2は、地域ブロック別の回収率である。都道府県別にみると回収率にかなりばらつきがみられるが、地域ブロック別にみると、それほど大きいばらつきは認められない。ただし、近畿の回収率がやや低い。

#### ②学校規模

回答校579校の学校規模は、表3に示すとおりである。ここでは、学級数によって学校規模を三つに区分した。この区分のうち、学級数9以下の小学校は、学校教育法第75条でいう「特殊

表2 地域ブロック別集計

地域	都道府県	発送数	回収数	回収率(%)
北海道・東北	北海道, 青森, 岩手, 宮城	168	107	63.7
	秋田, 山形, 福島			
関東	茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉	218	127	58.3
	東京, 神奈川			
中部	新潟, 富山, 石川, 福井, 山梨	155	104	67.1
	長野, 岐阜, 静岡, 愛知			
近畿	三重, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫	144	74	51.4
	奈良, 和歌山			
中国・四国	鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口	123	87	70.7
	徳島, 香川, 愛媛, 高知			
九州	福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分	132	80	60.6
	宮崎, 鹿児島, 沖縄			

表3 学校規模別集計

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計(%)
9学級以下	75	42	45	22	59	50	293 (50.6)		
10~19学級	25	59	44	36	20	19	203 (35.1)		
20学級以上	7	26	15	14	7	11	80 (13.8)		
無記入	0	0	0	2	1	0	3 ( 0.5)		
計	107	127	104	74	87	80	579 (100)		

「学級」を除くと、一学年1学級のいわゆる単学級が1年から6年までの全学年か大半の学年を占めるような比較的小規模の学校である。学級数が10以上19以下の学校は、平均すると一学年が2, 3学級ある中規模の小学校であり、学級数が20以上の学校は、一学年が3学級以上あると思われる、比較的大きい小学校である。

### 3. 2 「縦割り班」の編成状況

#### ① 「縦割り班」を編成しているか

異学年の交流を目的とした「縦割り班」を編成している小学校は、回答校579校（うち1校は無記入）中の441校で、割合でいうと76.2%であった。およそ4分の3の小学校で、「縦割り班」を編成していることになる（図1）。ただし、ここでは、ペア学年および兄弟学級は「縦割り班」としてカウントしていない。

地域ブロック別、学校規模別の「縦割り班」

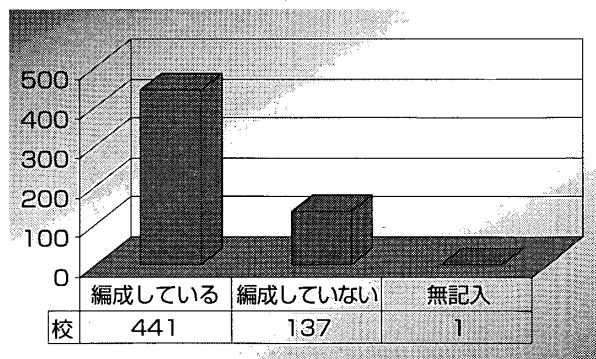


図1 「縦割り班」を編成しているか

の編成率は、表4、表5に示したとおりである。地域ブロック別にみると、近畿でやや編成率が低いものの、それほど大きな地域性は認められない。「縦割り班」の編成率に関して、バロメーターになるのは、地域性ではなく、むしろ学校規模である。

表5から明らかなように、学校の規模が大きくなるほど、「縦割り班」の編成率は低くなっている。

いる。つまり、小規模校のほうが「縦割り班」を編成している割合が高い。複式学級のある学校では、必然的に全校単位で（つまり1年生から6年生までが一緒に）活動する機会が多くなる。また、一学年1学級のいわゆる単学級の学校でも、クラス替えがないように、どうしても「集団にもまれる」ことが少なくなるので、その対策として「縦割り班」を編成することの意義が大きいのであろう。しかも、小規模校の場合、大規模校と比べて、「縦割り班」活動の組織化にそれほど手間がかからないという利点がある。小さな労力で大きな効果を期待できるのである。

では、大規模校の場合はどうか。小規模校と同じやり方では「労多くして益少なし」ということになるのであろうか、「縦割り班」とは違う形態の異年齢の集団づくりの取り組みが多くなる。下の表6は、ペア学年ないし兄弟学級の編

表4 同（地域ブロック別）

地域	編成している	編成していない	編成率(%)
北海道・東北	86	21	80.4
関東	95	32	74.8
中部	85	18	81.7
近畿	49	25	66.2
中国・四国	68	19	78.2
九州	59	21	73.8

表5 同（学校規模別）

地域	編成している	編成していない	編成率(%)
9学級以下	256	36	87.7
10~19学級	145	58	71.4
20学級以上	39	41	48.8

表6 ペア学年ないし兄弟学級を編成しているか（学校規模別）

地域	編成している	編成していない	編成率(%)
9学級以下	44	245	15.2
10~19学級	73	130	36.0
20学級以上	34	45	43.0

成率を学校規模別に示したものである。ペア学年ないし兄弟学級は、「縦割り班」と比べて活動の組織化が簡単で、どちらかといえば大規模校向きなのであろう。ペア学年ないし兄弟学級の編成率に関しては、小規模校よりも大規模校のほうが高くなっている。

もし、ペア学年ないし兄弟学級も「縦割り班」としてカウントすれば、学校規模別の「縦割り班」の編成率は表7のようになる。

## ②「縦割り班」を総称する呼び名

全国の小学校で、「縦割り班」を総称する呼び名として最もポピュラーなものは「なかよし班」（「なかよしグループ」なども含む）である。「縦割り班」を編成している441校中の62校がこう呼んでいる。次に多いのが、そのものばり「縦割り班」ないし「縦割りグループ」と呼んでいる学校の41校である。ただし、「特になし」と答えた学校と無記名の学校のなかにも、実は、この呼び名を使っている学校が多いと思われる。三番目に多いのは、「○○っ子」（○○のなかには、学校名や地域の特産などの名前が入る）という呼び名の17校である。その他では、「色別班」

表7 「縦割り班」の編成率（学校規模別、ペア学年、兄弟学級を含む）

地域	編成している	編成していない	編成率(%)
9学級以下	258	30	89.6
10~19学級	177	26	87.2
20学級以上	62	17	78.5

表8 「縦割り班」をどう呼んでいるか

なかよし班	.....	62
縦割り班	.....	41
○○っ子	.....	17
色別班	.....	13
ふれあい班	.....	12
その他	.....	65
特になし	.....	126
無回答	.....	105

(「色別グループ」、「色別チーム」なども含む)と呼んでいる学校が13校、「ふれあい班」(「ふれあいグループ」なども含む)と呼んでいる学校が12校ある。

#### ③班の規模、班の数

班の規模を、6名前後(3~8名), 12名前後(9~14名), 18名前後(15~20名)という具合に、6の倍数の人数で分けて示したのが図2である。言うまでもなく、6名前後の班はだいたい同学年1名で構成されており、12名前後の班はだいたい同学年2名、18名前後の班はだいたい同学年3名から成る。図2をみると、一つの班を12名前後で構成している学校が最も多いことが分かる。

一つひとつのクラスにクラス担任がいるように、「縦割り班」にもそれぞれの班の担当教員がいる。大規模校では、教員一人当たりの児童数が多いから、もし一つの班を12名程度で構成しようとすれば、一人の教員が同時に二つ以上の班を担当しなければならなくなる。それを避けたければ、班の規模を大きくするしかない。しかし、いずれにせよ教師の目は行き届かなくなる。それに対して、小規模校では、一人の教員が一つの班を、しかも適当な規模の班を担当することが可能である。この点からも、大規模校よりも小規模校で、「縦割り班」活動への取り組みが盛んになるのは頷けよう。

#### ④班の編成方法

「縦割り班」の編成方法として最も一般的なやり方は、学年や男女の比率、リーダーの有無、兄弟関係などを考慮しながら教師が年度始めに編成するというやり方である。もちろん、これ

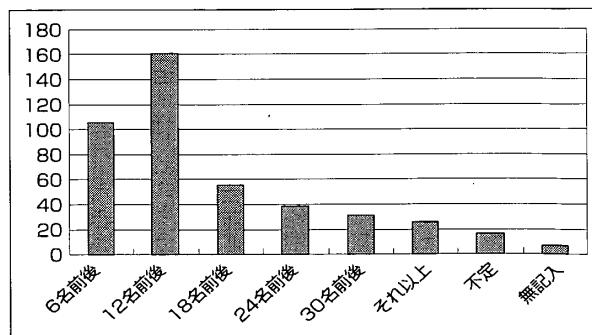


図2 班の規模

といった配慮をせずに、名簿順やくじ引きなどで機械的に割り振っている学校もある。班対抗リレーなどの体育的な活動が多い学校では、班分けに際して、50メートル走のタイムのような運動能力を考慮に入れることもある。また、登校班や地区別の子ども会をそのまま「縦割り班」にあてている学校もある。

### 3.3 集会活動と「縦割り班」

#### ①児童小集会

朝の時間などに「縦割り班」(ペア学年、兄弟学級を含む)で定例的に集会活動(いわゆる小集会)を行っている小学校は、回答校579校(うち3校は無記入)中の219校で、割合でいうと37.8%であった(図3)。これを地域ブロック別、学校規模別にみると表9、10のとおりである。

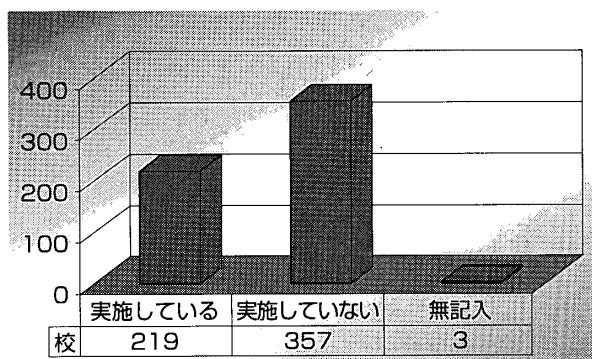


図3 「縦割り班」で小集会を実施しているか

表9 同(地域ブロック別)

地域	実施している	実施していない	実施率(%)
北海道・東北	37	70	34.6
関東	55	71	43.7
中部	42	61	40.8
近畿	24	49	32.9
中国・四国	30	57	34.5
九州	31	49	38.8

表10 同(学校規模別)

地域	実施している	実施していない	実施率(%)
9学級以下	122	169	41.9
10~19学級	74	128	36.6
20学級以上	23	57	28.6

この小集会の呼び名は、学校によって様々であるが、「縦割り班」を「なかよし班」と呼んでいる学校の多くが「なかよしタイム」(「なかよし集会」などを含む)と呼んでいた。同様の関係は、「○○っ子」と「○○っ子タイム」(「○○っ子集会」などを含む),「ふれあい班」と「ふれあい集会」(「ふれあい活動」などを含む)の間にも認められる。もちろん、特別な名前をつけていない学校も多い。

小集会の活動内容としては、①みんなで一緒に楽しめるゲームや伝承あそび、②長縄とびや班対抗リレーなどの体育的な活動、③運動会や児童大集会のための準備や練習、④班単位で行なう共同作業や表現活動などが挙げられていた。  
②児童大集会

いわゆる児童大集会を「縦割り班」(ペア学年、兄弟学級を含む)で行なっている小学校は、回答校579校(うち25校は無記入)中の342校で、割合でいうと59.1%であった(図4)。これを地域ブロック別、学校規模別にみると、表11,12のとおりである。小集会ほど頻繁に行なわれているわけではないが、多くの小学校で取り組まれている。

活動内容をみると、圧倒的に多いのが「1年生を迎える会」と「6年生を送る会」である。それ以外では、「長縄大会」や「リレー大会」などのスポーツ大会、「縦割り班」対抗するゲーム大会、「七夕集会」や「クリスマス集会」などの季節の集会、いもほりなどの収穫祭、クリーン活動、ウォークラリーなど、様々な集会活動が「縦割り班」で行なわれている。

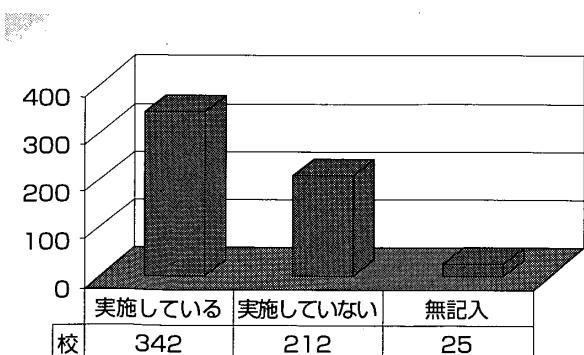


図4 「縦割り班」で大集会を実施しているか

表11 同(地域ブロック別)

地域	実施している	実施していない	実施率(%)
北海道・東北	62	41	60.2
関東	68	51	57.1
中部	72	30	70.6
近畿	48	22	68.6
中国・四国	54	30	64.3
九州	38	38	50.0

表12 同(学校規模別)

地域	実施している	実施していない	実施率(%)
9学級以下	188	96	66.2
10~19学級	119	77	60.7
20学級以上	35	37	48.6

### 3.4 当番活動と「縦割り班」

#### ①「縦割り清掃」

「縦割り清掃」を行なっている小学校は、回答校579校(うち5校は無記入)中の268校で、割合でいうと46.3%であった(図5)。表13は地域ブロック別の実施率を示したものである。これを見ると関東および近畿での実施率が、目立って低くなっている。また、表14の学校規模別の実施率をみると、規模が大きい学校ほど実施率が下がるという傾向がはっきり出ている。

「縦割り清掃」を行なっている268校について、その清掃班は児童集会や行事などで異学年交流を目的として作られた「縦割り班」と同じものか別のものかを尋ねたところ、「同じもの」と答

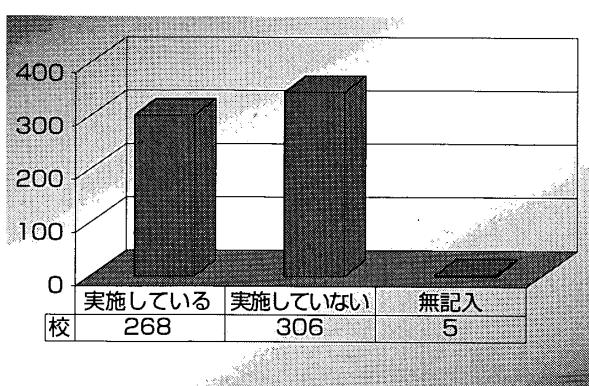


図5 「縦割り清掃」を実施しているか

表13 同（地域ブロック別）

地域	実施している	実施していない	実施率(%)
北海道・東北	63	43	59.4
関東	37	87	29.8
中部	56	48	53.8
近畿	20	54	27.0
中国・四国	50	37	57.5
九州	42	37	53.2

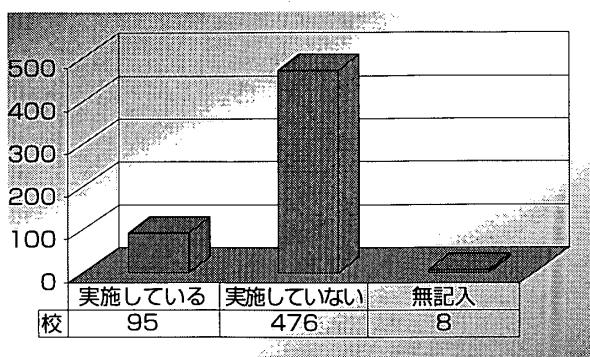


図7 「縦割り栽培・飼育」を実施しているか

表14 同（学校規模別）

地域	実施している	実施していない	実施率(%)
9学級以下	193	97	66.6
10~19学級	57	146	28.1
20学級以上	16	62	20.5

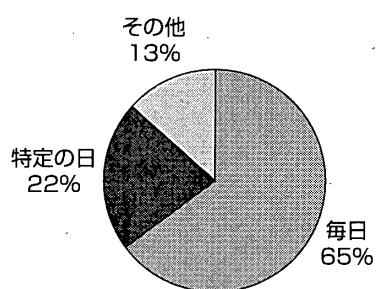


図6 「縦割り清掃」の活動頻度

えた学校が168校、「別のもの」と答えた学校が97校であった。

さらに、「縦割り清掃」を行なっている268校について、その活動頻度を尋ねたところ、図6に示したとおり、毎日すべての清掃区域を「縦割り班」で清掃していると答えた学校が174校、特定の日に特定の清掃区域だけ「縦割り班」で清掃していると答えた学校が58校、その他の学校が36校であった。

## ②「縦割り栽培・飼育」

「縦割り栽培」ないし「縦割り飼育」を行なっている小学校は、回答校579校（うち8校は無記入）中の95校で、割合でいうと16.4%であった（図7）。これを地域ブロック別、学校規模別にみると、表15、16のとおりである。近畿、関東

表15 同（地域ブロック別）

地域	実施している	実施していない	実施率(%)
北海道・東北	20	86	18.9
関東	14	108	11.5
中部	12	92	11.5
近畿	5	69	7.5
中国・四国	23	64	26.4
九州	21	57	26.9

表16 同（学校規模別）

地域	実施している	実施していない	実施率(%)
9学級以下	81	209	27.9
10~19学級	13	188	6.5
20学級以上	1	76	1.3

よりは九州、中国・四国のほうが、また、大規模校よりは小規模校のほうが、「縦割り栽培・飼育」を実施している割合は高い。

## ③「縦割り給食」

「縦割り給食」を実施している小学校は、回答校579校（うち22校は無記入）中の215校、割合でいうと37.1%であった（図8）。

その「縦割り給食」に「なかよし給食」「○○っ子ランチ」などの特別な名前をついている学校もあった。「縦割り給食」をどれくらいの頻度で実施するかについては、ランチルームがあるかないかという条件によって全然違ってくる。ランチルームがあれば、毎日でも実施できるが、なければ年間数回の実施にとどまる。

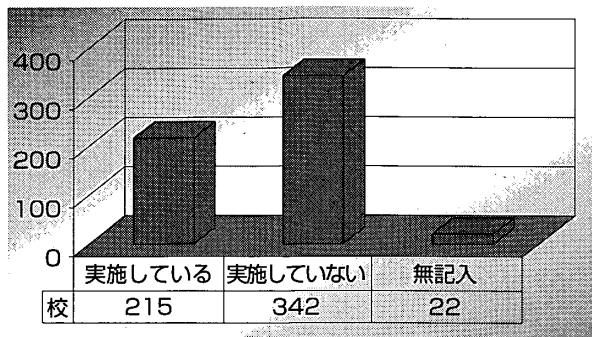


図8 「縦割り給食」を実施しているか

### 3. 5 楽間の活動と「縦割り班」

昼休みなどの長い休み時間に縦割りで過ごせる（遊べる）ように工夫していると回答した小学校は、579校（うち13校は無記入）中の160校で、割合でいうと27.6%であった（図9）。これを地域ブロック別、学校規模別にみると、表17、18のとおりである。その間に、「なかよしタイム」「○○っ子タイム」などの特別な名前をつけている学校もあった。活動内容は、やはり集団遊びとスポーツが圧倒的に多い。

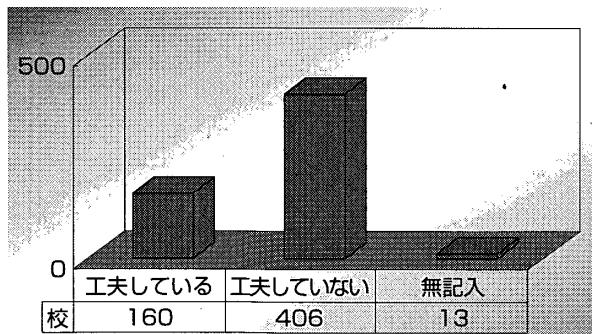


図9 楽間を縦割りで過ごせる（遊べる）ように工夫しているか

表17 同（地域ブロック別）

地域	工夫している	工夫していない	率(%)
北海道・東北	30	76	28.3
関東	37	87	29.8
中部	38	63	37.6
近畿	16	57	21.9
中国・四国	21	64	24.7
九州	18	59	23.4

表18 同（学校規模別）

地域	工夫している	工夫していない	率(%)
9学級以下	86	199	30.2
10~19学級	52	147	26.1
20学級以上	22	57	27.8

### 3. 6 学校行事と「縦割り班」

「運動会」を「縦割り班」対抗で実施している小学校はかなり多い（図10）。どのようなやり方かといえば、「縦割り班」ごとに鉢巻きの色を決めており、どの競争種目においても、子どもたちの成績は得点化されて、各自の班の総得点に加算されていくというやり方が一般的である。

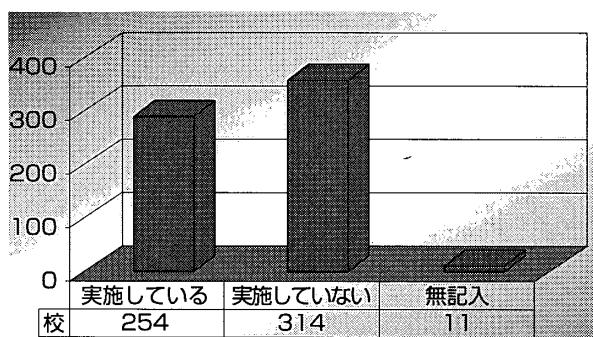


図10 運動会を「縦割り班」対抗で実施しているか

遠足を「縦割り」（ないしペア学年、兄弟学級）で実施している小学校は、回答校579校（うち19校は無記入）中の224校であった（図11）。春の遠足を「新入生歓迎行事」と位置づけて「縦割り」で実施している学校が、小規模校にかなり多い。

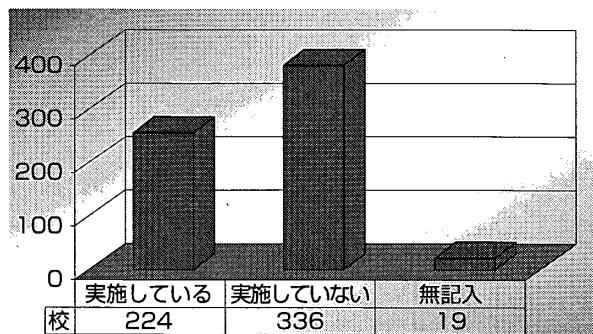


図11 遠足を「縦割り」で実施しているか

宿泊学習を「縦割り」(ないしへア学年、兄弟学級)で実施している小学校は少ない(図12)。低学年では、まだ年齢的に難しく、6年生は修学旅行があるので、宿泊学習といえば、どうしても「5年生の行事」になってしまうのだろう。

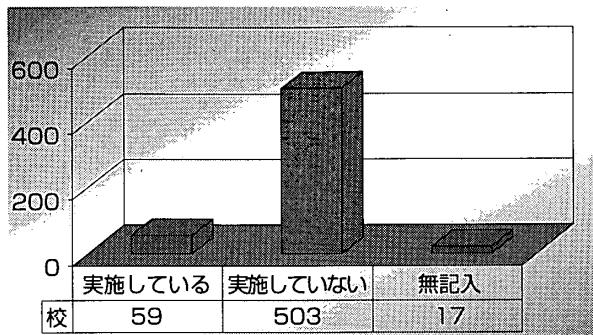


図12 宿泊学習を「縦割り」で実施しているか

### 3. 7 いつ頃から「縦割り班」活動は普及したか

「縦割り班」活動の取り組みが、全国の小学校に普及しはじめたのはいつ頃からか。アンケートの回答から推測すると、1970年代の末から、この取り組みは広がっていったと思われる。もちろん、それ以前にも、「縦割り班」活動を意図的に組織していた学校は僅かながらあった。しかし、それが「普及しはじめた」といえるのは、この時期以降のようである。1977年の学習指導要領の改訂によって、いわゆる「学校裁量の時間」が創設され、多くの小学校が、この時間を「特別活動」の充実を図るために活用した。その際、学校における「創意工夫」の一つとして、「縦割り班」活動の取り組みを始めた学校がかなりあったものと思われる。その後、学校5日制の実施などにより、「学校裁量の時間」はないに等しくなったが、時間面の条件が厳しくなったにもかかわらず、「縦割り班」をはじめとする異年齢の集団づくりの実践は、さらに広がっていった。少子化に伴って、学校の規模が次第に縮小したこと、とりわけ「単学級」の学校が増えたことが、こうした実践が広がった要因としては大きい。それにしても、異年齢の仲間との交流を、学校が意図的にもたらせようとするることは、そうたやすい実践ではないはずである。それで

も広がっていったのは、やはり、今日の子どもたちの実態、とりわけ彼らの社会性の不足に対して、何とか手を打たねばという、やむにやまれぬ教育の必要感が、心ある教師たちを動かしててきたからであろう。

### 4 「縦割り班」活動の教育的意義と課題

異年齢の子どもたちが「縦割り班」活動に取り組むことには、どのような教育的意義があるのか。近年、兄弟数が減少し、地域における遊び仲間集団も崩壊するなかで、仲間とうまく付き合えない子ども、いわゆる社会性のない子どもが増えている。子どもたちの社会性を育てる上で、学校において「縦割り班」を編成し、異年齢の子どもたちが交流する機会を与えてやることの意義は大きい。

「縦割り班」の範型（モデル）は、地域における異年齢の遊び仲間集団である。そこでは、上の年齢の子どもが、年下の子どもに配慮しつつ、その遊び仲間の世界を「仕切る」ことで、リーダーとしてのあり方を自然に身につけていたし、下の年齢の子どもは、身近な目標であり、また憧れの存在である年上の子どもの言動を見習うことで、さまざまな生活の知恵や遊び方などを習得していた。もちろん、かつて地域にあった自然発生的な遊び仲間集団を、そのまま学校のなかに再現することはできないだろう。しかしそれでも、「縦割り班」という異年齢集団で、遊びや作業などの活動に取り組むことを通して、子どもたちの社会的な資質、とりわけ同級生との交流だけではなかなか得られないリーダーおよびフォロワーとしての資質を培うことができるのである。

このように「縦割り班」活動には、大きな教育的意義が認められるが、しかし、その異年齢集団活動は、かつての地域における群れ遊びのように自然発生的なものではなく、学校の教師たちが、あえて意図的、計画的に用意したものであり、それだけにさまざまな困難を抱えていることも事実である。

そこで、以下に、「縦割り班」活動の課題をい

くつか挙げてみる。

第一に、時間の確保が難しくなっていることである。「縦割り班」活動をするための時間は、教育課程の上では、多くの場合、特別活動の時間に位置づけられるが、この間、学校週5日制の実施などにともない、授業時数の確保に追われ、十分な「縦割り班」活動をするための時間を奪われている。

いや、見方を変えれば、「縦割り班」活動の時間が奪われているのではなく、「縦割り班」活動が教師の時間を奪っていると言えるかもしれない。近年、教師はますます多忙感を強めているが、もともと「縦割り班」活動に消極的な教師からすれば、この活動の取り組みは、班の編成や活動の打ち合わせなども含めて何かと時間がかかりすぎるのである。

そのことと関連して、第二に、教師間の意思統一が難しいということである。「縦割り班」活動は、学級や教科という枠を超えた全校的な取り組みである。そのため、全校教師の共通理解にもとづく共同歩調が欠かせない。ところが、

「縦割り班」活動に対する教師間の温度差は大きく、しかも、教師は忙しくなればなるほど、自分の学級、教科だけに閉じこもろうとする傾向があって、なかなか「共通理解にもとづく共同歩調」というふうにはいかないのである。

第三に、活動が次第にマンネリ化していくことである。これは、「縦割り班」活動だけに限らないことであるが、こうした全校的な活動は、教師間の意思統一が難しいだけに、たとえ行なうにしても、前年度と同じような活動案を、ただ「消化」していくだけになりやすい。こうなると、確かに時間はそれなりに省けるようになるが、同時に、活動することの意味合いも薄れていくのである。

第四に、活動の効果をすぐに確認できず、評価があいまいになることである。「縦割り班」活動によって、社会性を培うといつても、そのような成果はすぐに確認できるようなものではない。そこで、取り組みの成果を長い目で見ることも、取り組みの過程それ自体を評価することもなく、「学力向上」の掛け声が大きくなれば、

このような活動の取り組みはいつの間にか後退していくのである。

「縦割り班」活動は、上から与えられたもの、課せられたものではない。それに取り組むかどうかは、それぞれの学校の教師たちの考え方次第である。全国の、およそ4分の3の小学校で取り組まれているのは、上に見たような、いくつかの課題を抱えながらも、それでも取り組む価値があると、多くの教師たちが考えているからである。本発表は、全国の小学校に広がっていった、「縦割り班」活動の取り組みの現状を明らかにするとともに、その教育的意義と課題について考察したものである。

#### 参考文献

毛利猛・石原和子「異年齢の仲間づくりに関する研究—「縦割り班」の活動を中心に」香川大学教育実践総合研究 第3号、2001年、57-79頁。

(資料)

1、先生の小学校の概要についてお尋ねします。

①先生が現在勤務されている小学校名とその所在地を教えてください。

学校名  所在地

②先生が現在勤務されている小学校の全校児童数および学級数を教えてください。  
(平成14年度10月1日現在)。

児童数  名 学級数  班

2、先生の小学校では、児童集会や行事などで異学年交流を目的とした「縦割り班」を作つておられますか(ただし、ここではペア学年、兄弟学級は除きます)。

1. はい  2. いいえ

上の質問で、「1. はい」と答えた先生にお尋ねします。

①「縦割り班」を総称する呼び名(例、「〇〇っ子ながま」「なかよし班」)はありますか。ありましたら具体的に教えてください。

②一つの班は何名で構成されていますか(班の規模)。また全部でいくつの班がありますか(班の数)。

班の規模  名 班の数  班

③その「縦割り班」は、どうやって編成していますか。編成の仕方を具体的に教えてください。

3、先生の小学校では、ペア学年ないし兄弟学級を作つておられますか。

1. はい  2. いいえ

上の質問で、「1. はい」と答えた先生にお尋ねします。

①それは、どのような学年ないし学級の組み合わせですか。具体的に教えてください。

4、児童会の集会活動についてお尋ねします。

4-1、毎週ないし月に1、2回程度、朝の会などに「縦割り班」(ないしペア学年、兄弟学級)で定期的に行なう集会活動(いわゆる小集会)はありますか。

1. はい  2. いいえ

上の質問で、「1. はい」と答えた先生にお尋ねします。

①その小集会を総称する呼び名(例、「〇〇集会」、「〇〇タイム」)はありますか。ありましたら具体的に教えてください。

②その小集会では、どのような活動をしていますか。活動内容を具体的に教えてください。

4-2、「〇〇大会」（例、長縄大会）、「〇〇集会」（例、七夕集会）、「〇〇祭り」など、学期に1、2回程度、児童会の行事として、1単位時間以上をかけて「縦割り班」（ないしペア学年、兄弟学級）で行なう集会活動（いわゆる大集会）はありますか。

1. はい  2. いいえ

上の質問で、「1. はい」と答えた先生にお尋ねします。

①いつもごろ、どのような大集会を「縦割り班」（ないしペア学年、兄弟学級）で行ないますか。具体的に教えてください。

5、児童の当番活動についてお尋ねします。

5-1、先生の小学校では、「縦割り清掃」を行なっていますか（ただし、入学して間もない1年生の教室に上級生が応援にいくものは、ここでは除きます）。

1. はい  2. いいえ

上の質問で、「1. はい」と答えた先生にお尋ねします。

①その「縦割り清掃」は、児童集会や行事などの異学年交流を目的として作られた「縦割り班」と同じものですか。それとも、最初から清掃班として別個に作られたものですか。

1. 同じもの  2. 別のもの

②その「縦割り清掃班」で、教室を含めたすべての清掃区域を毎日清掃していますか。それとも、毎日の教室などの清掃については学級単位で行なって、「縦割り清掃班」では、週に1回とか月に1回、特定の清掃区域だけ清掃していますか。

1. 「縦割り清掃班」で、すべての清掃区域を毎日清掃している。  
2. 「縦割り清掃班」で、特定の日に特定の清掃区域だけ清掃している。  
3. その他（余白に具体的に記入してください）

5-2、先生の小学校では、「縦割り栽培、飼育」を行なっていますか。

1. はい  2. いいえ

上の質問で、「1. はい」と答えた先生にお尋ねします。

①どういう形態で実施していますか。具体的に教えてください。

5-3、先生の小学校では、「縦割り給食」を行なっていますか。

1. はい  2. いいえ

上の質問で、「1. はい」と答えた先生にお尋ねします。

①その「縦割り給食」に特別な呼び名（例、「なかよし給食」「〇〇っ子ランチ」）はありますか。ありましたら教えてください。

②どういう形態で、どれくらいの頻度で実施していますか。具体的に教えてください。

6、先生の小学校では、星休みなど長い休み時間に縦割りで過ごせる（遊べる）よう  
に工夫されています。

1. はい      2. いいえ

上の質問で、「1. はい」と答えた先生にお尋ねします。

①その時間に特別な呼び名（例、「○つの子タイム」など）はありますか。あります  
たら教えてください。

9、各地の小学校で、このような「縦割り班」活動の実践が、いつごろから始ま  
ったかご存じですか。先生ご自身は、教員生活のなかで最初に取り組んだのはいつご  
ろで、それはどこの小学校においてですか。

7、学校行事についてお尋ねします。

①先生の小学校では、「運動会」を「縦割り」対抗でやっていますか。

1. はい      2. いいえ

②先生の小学校では、「遠足」を「縦割り」（ないしペア学年、兄弟学級）で実施  
していますか。

1. はい      2. いいえ

③先生の小学校では、「宿泊学習」を「縦割り」（ないしペア学年、兄弟学級）で  
実施していますか。

1. はい      2. いいえ

8、その他、先生の小学校で、「縦割り」で取り組んでいる活動はありますか。あり  
ましたら具体的に教えてください。

ご協力ありがとうございました。